

## 談論

土木學會誌 第一卷第五號 大正四年十月

### 技術家責任論

工學士 佐藤 四郎

世人ノ技術家ノ責任ヲ論スルヤ頗ル酷ニ失スル如シ例ヘハ或ル工事若シクハ建築物ノ破損崩壞ヲ見ルアラシキ乎其原因ノ何タルヲ問ハス其責任ノ何人ニ歸スヘキヤヲ明ラカニセス當唯其工事ノ設計者擔任者タル技術家ノ罪ト做シ百方之ヲ攻撃シ其無能ヲ罵リ其責任ヲ誹リ遂ニ其位置ヲ去ラシメスンハ止マサルナリ

然ルニ世人ノ醫師ノ責任ヲ論スルハ如何辯護士ノ責任ヲ是非スルハ奈何若シ誤診ノ結果或ハ治療其ノ當ヲ得サリシ爲メ人命ヲ危險ニ陥ラシメンカ若シクハ再ヒ恢復スヘカラサル生命ヲ失ヒタル時ハ如何其誤診ノ結果ナルヤ將其治療當ヲ得サリシ爲ナルヤ是等ノ原因ヲ深ク攻究シテ醫師ノ責任ヲ云爲スルモノハ甚ダ稀ニシテ唯單ニ疾病ノ重キカ爲メニ死セルトナシ是ヲ天命トシテ死ヲ遇スルモノ比々皆然リ

辯護士ノ責任ヲ論スルモ亦同シク訴訟ニ敗レタル場合ニ於テ世人ハ其辯護ヲ依頼セル辯護士ノ辯論ノ拙劣ナル爲メニ熱誠ヲ缺ケル爲メニ論理ノ薄弱ナル爲メニ正義有道ノ依頼者ノ敗訴セル場合ニ於テモ其辯護士ノ無能無識ヲ鳴ラシテ是ヲ批難攻撃スルモノ蓋シ鮮シ矣

若シ夫レ行政上ノ失敗失錯ノ如キニ至ツテハ世人ノ之ヲ等閑視スルモノ多キ頗ル奇異タラサル

ナカラシヤ  
 惟フニ世人ノ醫師辯護士ノ責任ヲ輕視スル所以ノモノハ事多ク私人又ハ一個人ニ屬スルヲ以テ  
 病者ノ治療宜キヲ得サル或ハ訴訟ノ辯護其正理ヲ主張スルヲ得サル場合ニ於テモ他迄該醫師ヲ  
 責ムルモ敢テ病者ノ恢復ヲ促進スルト云フ方策トモナラス又辯護士ノ拙劣無能ヲ難詰スルモ何  
 ノ益スル所モナキヲ以テ其儘泣寢入ニ畢ハラサルモノ無キニ至リシ也

行政上ノ失錯ニ至ツテハ事頗ル浩漭ニ亘リ然モ人事ハ複雑ニシテ其失敗ノ結果ハ直接ニ影響ヲ  
 及ホスコト稀ニシテ且ツ急速ニ現實ニ表顯サル、コト尠ナク其社會ノ耳目ニ觸ル、ヤ概ネ間接  
 ニシテ且ツ緩漫ナルヲ以テ失敗ノ結果ノ頗ル重大ナルニ拘ハラス直接的急遽的如實のナラサル  
 故ニ其失錯ノ責任者當事者ヲ適確如實ニ何人ナルヤヲ指摘スル事モ困難ナルヲ以テ從ツテ其實  
 任ヲ云爲攻撃スルノ擧ヲ敢テスル者ノ稀少ナル所以ナリトス

然ルニ技術家ノ責任ノ有無ハ其工事其物カ社會ノ耳目ニ觸ル、ヘキ有形體ニシテ特ニ土木工事  
 ノ如キ日常直接ニ社會人事ニ接觸利用セラル、モノ多ク河川改修港灣修築或ハ鐵道建設又ハ橋  
 梁架設ヨリ道路布設水道下水ノ計畫建築等ニ至ル迄總テ日常世人ノ利用行使セルモノナルカ故  
 ニ一旦何等カノ原因ニ由リ其工事或ハ構造物ノ破損潰敗ヲ來スヤ直ニ社會人事ニ直接ニ影響ス  
 ルヲ以テ世人ハ其潰破倒壞ノ原因ノ那邊ニ存在セルヤ若クハ如何ナル基因ヨリ到來セルヤヲ深  
 ク精査探究ヲ遂ケスシテ唯單ニ之ヲ計畫擔任セル技術家ノ責任ニ歸シ喧々囂々トシテ技術家ヲ  
 批難攻撃シ其位置ヲ去ラシムルノミナラス遂ニハ社會ヨリ放逐セスンハ止マサルニ至ルモノア  
 リ嗚呼世人焉ソ單リ技術家ヲ責ムルノ重キヤ

吾輩敢テ詭辯ヲ弄スルニ非ルモ工事ノ失敗建設物ノ破損構造物ノ倒潰セル如キハ之ヲ改築スヘ  
 ク修理スヘク將又之ヲ新設スヘシト雖人命ノ如キニ至ツテハ奈何若シ不幸醫師ノ錯誤ニ憑ツテ

一且病者ノ生命ヲ失ハシ平死者ハ再ヒ還ヘラス該患者ハ萬斛ノ怨ヲ吞シテ香烟一坏ノ墳土ニ朽  
 テサルヘカラス思一度爰ニ至ラハ慄然トシテ膚ニ粟ヲ生セサランヤ  
 若シ夫レ行政上ノ失敗失敗ニ至ツテハ其影響スル所頗ル廣汎シテ其害毒亦甚大也古來秕政以  
 下人民塗炭ノ若ニ墜テシ例枚舉ニ遑有ラザラントス此ノ如ク其失敗ノ大ナルモノハ後世史家ノ  
 筆誅スルトコロトナルヘシト雖其秕政ノ稍小ナルモノニ至ツテハ其害毒ノ深甚ナルニ拘ハラ  
 其結果ニ直接急遽ナラサルヲ以テ世人ノ是ニ留意スルモノ鮮ク漫然是ヲ看過シ失敗ノ責任者  
 ヲ指摘攻撃スルモノ、現ハレサル所以ナリトス  
 素ヨリ行政上ノ失敗ト謂フモ其意義廣潤ニシテ或ハ苛政暴戾ナルアリ或ハ爲政者ノ不徳不仁ナ  
 ルカ爲ニ民心ヲ萎靡墮落セシムルアリ是ヲ一律ニ論難スヘカラスト雖若シ爲政者ノ不徳ヨ  
 リ民心ノ腐敗墮落ヲ來サン乎朽木ハ雕ルヘカラス糞土ノ牆ハ朽ス可カラス一旦腐敗セル民心ハ  
 之ヲ反正改善セシムルハ殆ト不可能ニシテ一朝一夕ノ善ク盡スヘキニ非ス豈畏レテ慎マサルヘ  
 ケンヤ是ヲ一建造物ノ破壊セル等ノ損害ニ比シテ其害毒ノ差果シテ幾何ツヤ  
 工事及ヒ建造物ノ破損倒壊モ深ク其原因ヲ探究スル時ハ多クハ天災地變ノ不可抗力ニ基因スル  
 モノ多シ蓋シ天災地變ノ不可抗力ト雖或程度マテハ技術上ノ設計ヲ以テ之ヲ防止シ得ヘシ然リ  
 ト雖幾十年幾百年ノ後ニ突發スル所ノ大洪水大地震ノ如キ絶大破壊力ヲ有スル變災ヲ絶對ニ防  
 止スヘキ企畫設計ノ如キハ絶大ノ金力ト努力トヲ惜マセンハ敢テ絶對ニ不可能ニ非ルヘキモ工  
 事ノ種類ト性質トヲ攷覈シ相當適宜ノ設計ヲ安全ニ企圖計畫スル場合ニ於テハ豫想スヘカラサ  
 ル絶對ノ異變不可抗力ハ到底計算ニ容ルヘキニ非ル也  
 蓋シ技術家ノ工事計畫ヲ設計企圖スルニ當リ技術ニ對シ素人タル行政家ノ容喙掣肘センハ最モ  
 忌ムヘキニ拘ハラヌ世間往々ニシテ之ヲ敢テスルモノ多ク如何ナル工事ノ設計ニ於テモ比々皆

然ラサルモノナシ技師ノ設計豫算ノ如キハ實際ノ經濟ヲ知ラサルヲ以テ必スヤ其三割乃至四割ヲ必然削減スヘキモノナリト放言否確信スル行政家ノアルニ至ツテハ吾人ハ果然トシテ自失セサルヲ得ス

若シ技術家カ行政家ノ削減セル豫算ヲ以テハ到底工事ノ安全ヲ期スル能ハサルヲ主張セン平行政家ハ壓制的ニ或ハ哀願的ニ技術家ヲ屈服セシム可ク然ラスンハ之ヲ慰諭シテ曰ク豫算ニ絶對定限アリ是以上如何ナル理由方策ヲ用フルモ増額ス可ラス故ニ斯ノ制限豫算ヲ基礎トシテ設計セヨ若シ萬一不幸ニシテ竣成セル工事ニ缺點アリ或ハ不備ノ點アラハ其責任ハ吾等之ヲ負ハン下然ルニ期年ノ後工成リ不幸ニシテ不完全ナル箇處ヲ發見センカ或ハ何等カノ原因ノ爲ニ工事ノ倒潰破損スルコトアラシ乎前ノ行政家ハ管テ技術家ノ原設計ヲ破棄シ寧ロ改惡セル減額豫算ヲ以テ之ヲ施行セシメタルコトヲ全然知ラサル如キ風ヲ裝ヒ是技術家ノ無能ナリ無責任ナリ無經驗ナリト論難攻撃至ラサルナク遂ニ是ヲ放逐セスンハ止マサルナリ

技術家カ他迄其設計及ヒ豫算ヲ確持シ其天職ヲ自尊セサルハ其罪ノ一端ハ免ル可クモアラスト雖吾人ハ行政家カ技術家ヲ遇スルニ單ニ市井ノ工人ノ如ク看做シ唯彼等ノ願使ニ隨從セシムヘキモノト思惟シ如何ナル工事モ行政家ノ肆マニ認定セル豫算ヲ以テ設計セシムヘキト考量スル如キハ根本的ニ愆レル志想ニシテ首尾ヲ轉倒セル謬見ナリト思ハスシムアラス

若シ夫レ春秋ノ筆法ヲ用ヒン乎行政家工事ノ設計ヲ過リ遂ニ是ヲ破壞セリト夫レ然ラン然リト雖吾人ハ這ノ如キ是非ノ贅論ヲ繰返ヘスヲ欲セス只單ニ吾技術家カ此ク行政家ノ願使ニ甘ンセス其人格ト位置トヲ一路向上セシメ行政家ヲシテ技術家ノ設計ノ適確精緻ニシテ一絲一劃ヲ動カス可ラス一線一點ヲ移ス可ラサルノモノタルヲ信セシムル事ヲ睨メサル可ラサルヲ高唱スルモノ也(完)